

---

# 思考の罭

並盛りライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

思考の罫

### 【Nコード】

N1787C

### 【作者名】

並盛りライス

### 【あらすじ】

寝る前に天井を見上げると、そこには何の変哲もないシミがある。いつもは、気にならないはずなのに、何故か気になってしまふ。思考はそのまま広がっていき、その思考がやがて現実を侵食していく。

天井のシミに意味を与え始めたはずなのに、いつのまにか意味に天井のシミを当てはめていた。

そうだ、こんな時は羊だったか山羊だったかを数えるんだっけ。具体的に羊や山羊を想像するのは難しく、よく考えれば、私は実物の羊や山羊を見た事はないのだと気付く。

動物園で印象に残るタイプの動物ではないし、車を運転していて飛だしてくるタイプでもないのだ。

猫か犬ならば容易に想像できるのになあと考えはじめると、不意に昨晚牽いてしまった白い猫の事を思い出してしまふ。やけにハッキリと白が浮かんだ。

こんなんじや埒が明かない。そもそも何で天井のシミなんか気にしているんだろう。

眠れない事に意味を与える事は難しくないし、むしろ意味もなく眠れない事の方が変だ。

雨が降っていないのに傘をさすみたいに不自然だ。

そこで、思考する事を止める事にした。眠れない理由は簡単な事だと気付いたからだ。

天井のシミが明確に見える位に、この部屋は明るかったのだ。電気を消すのを忘れてる。

さっそく私は、スイッチがあるべきはずの壁に手を這わす。ようやく見つけたそれをオンからオフにする瞬間に、ブーンという音が聞こえた。

その音はやけに、頭の裏に張り付いていて、気になった。何かが停止する音。何かの命が失われる時は、こんな潔い音がするのだろうか。

十年前に飼っていた、金魚の事を思い出した。縁日で売っているような瀕死のやつじゃなくて、なにか特別な種類の金魚だったはず

だ。

ペットショップで副店長をやっている友人が、誕生日にくれたのだが。本当はエサや水槽を買わせる新手の詐偽だった気もする。

私が、よく漫画やテレビなどで見掛ける金魚鉢を買おうとすると必死に説得されて、最新設備の水槽を買わされたのだ。そういえば、あの水槽には水温を管理するクーラーがついていて、同じようにブーンという駆動音がしていた気がする。

暗闇の中で、泡がブクブクいつていて、クーラーが年中駆動している。私はその環境でも、ぐっすりと眠れていた。

金魚は、それからすぐに、水面に白い腹を見せて浮かんでいた。その白も鮮やかに思い出せる。

友人に、それを話すとエサをやり過ぎて水が濁って死んだのだと説明された。

新しい金魚を買うかと聞かれて、私はいららないと言った。大きくて邪魔な水槽の主はそれからずっと不在だった。そしてつい昨年、廃品回収の時に持っていつてもらった。

金魚に対しては、何の感慨も湧かなかったが、あの水槽には悪い事をしたと思う。ブーンという音は、彼の呼吸であり、彼はずっと死んでいた。せめて定期的に掃除をして、あのクーラーを作動させてやるぐらいの思いやりが私にあれば、救われただろうに。

あの水槽があった位置には、別の友人からもらった観葉植物が置いてある。

大きく葉を広げ、その場所を圧迫する。水をやり過ぎて枯れないように、最近は減らしている。

暗闇に慣れてきた両方の目が、朧げながら天井のシミを捉える。あれが昨日の猫で、あの4つあるのが十年前の金魚で、あれがこの間亡くなった祖母で……。

時間だけが過ぎていき、死者達は静かに囁く。私はそれに耳を傾ける。

あの大きくて角張ったやつが水槽の死骸だ。そう思うとなんだか

この部屋は、あの世の地図みたいだ。

いつのまにか、意味にシミを与えている自分が居る。じゃあ、あの一際大きいシミは誰の死体を表しているんだろうか。

ああ私は今、死にかけているんだな。ふと、そんな妙な考えが頭に浮かんだ。

振り払えば振り払う程、その考えは増殖していき、部屋の中に一際濃い闇が拡がっていく気がした。

全ては気のせいで、私が考え過ぎているだけだろう。天井のシミが、どんどんす黒さを増していくにつれ、私の不安は恐怖に変わっていく。

私は、もはや溢れ出る根拠のない不安の種を取り去る事ができないばかりか、猫、金魚、祖母と視点を移しながら栄養となる恐怖を注いでいる。

視点が水槽、そして自分のシミ……突然、甘ったるいガスのような匂いがして、意識が朦朧とした。

あんなに眠れなかったにも関わらず、意識が遠くに離れていく。

その中で、あの水槽のブーンという音が聞こえた気がした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1787c/>

---

思考の罫

2010年10月11日15時31分発行